

講義名	経営管理論B(経営学科1年生+3年生以上)			授業形態	
担当教員	柿沼 英樹	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

経営管理の大きな全体像を学んできた経営管理論Aを発展させて、経営管理のもう少し細部の様相を捉えることに取り組む。具体的には、経営管理に関する応用的な論点(例：フォロワーシップ、組織間関係、国際化)や、近年注目が集まりつつあるトピック(例：プラットフォーム企業、サービス・マネジメント、CSVやSDGs)を取り扱い、これらについて概説する。また、企業事例を取り上げながら、学んだことが実際にどう使われているのかについても理解を深める。

到達目標

本科目は、高学部経営学科のディプロマ・ポリシーに鑑みて、企業経営の動向や問題点を分析・理解するための基礎能力を身につけることを目指すものである。具体的には、以下の2つを到達目標とする。
 (1) ビジネス社会で直間する課題に、経営管理論の基礎知識を応用できるようになる。
 (2) 企業、経営者、ビジネスパーソンに関する必須情報と教養(ビジネス・リベラルアーツ)を修得できる。

提出課題

- ・毎回の授業において、その日の内容に関する小テストを実施する。
- ・複数回の授業内容を総合したレポート課題を実施する。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

- ・授業回ごとの小テストについては、授業内にて解答の提示と補足解説を行う。
- ・レポート課題については、締切後の授業内にて全体向けにフィードバックを行う。

評価の基準

- ・授業回ごとの小テスト20%、レポート課題20%、定期試験60%(詳細については、別途案内する)
- ・6回以上の講義出席は、自動的に「放棄」として評価を確定する。ただし、これは「5回までなら欠席して良い」という意味ではない。
- ・登学停止や欠欠に該当する事由は、大学が定めた手続きを行った場合のみ配慮する。

履修にあたっての注意・助言他

- ・本授業の履修にあたって、経営管理論Aの履修・単位修得は必須条件とはしない。
- ・履修表にもとづく出席確認を行う場合があるので、指定された出席で受講すること。
- ・公文書連絡の遅延以外の理由による15分以上の遅刻は、その日の受講や小テストの回答提出を認めるが、欠席とはして扱う。
- ・他の受講生の迷惑となる行為は厳禁とし、違反者は厳重に対応する。場合によっては退学を命じることもある。

教科書

.使用しない。				
---------	--	--	--	--

参考図書

.経営学の基礎知識。	水野由香里ほか	中央経済社	2750	9784502401015

その他

- <講義資料>
- ・授業回ごとに LMS にアップロードするので、各自で確認すること。教室内での印刷物の配布は行わない。
- <参考文献>
- ・各授業回において適宜提示する。

授業計画

01. 経営管理論Bで学ぶこと：講義ガイダンス、現代的・応用的な経営管理の論点とは
 02. 新たなリーダーシップ像：エシカル、オーセンティック、シェアード
 03. フォロワーシップ：フォロワーからみたらリーダーシップ、フォロワーシップ行動
 04. 組織と個人の意思決定：意思決定モデル、バイアスとヒューリスティック、グループシンク
 05. チーム・集団：グループダイナミクス、コミュニケーション
 06. コンフリクト・マネジメント：組織内コンフリクトの源泉、コンフリクトとの向き合い方
 07. 組織学習：個人的な学びと組織的な学び、知識創造
 08. 組織間関係：M&A、戦略的提携、ネットワーク組織
 09. ベンチャー：ベンチャー企業の特徴、アントレプレナーとアントレプレナーシップ
 10. プラットフォーム企業：ビジネス・エコシステム、フリーミアム、ネットワーク効果
 11. 国際化のマネジメント：国際化の動機、多国籍企業の特徴、日本企業の国際展開
 12. サービス・マネジメント：サービスの特性、顧客志向、価値共創
 13. 企業の社会的責任：CSR、CSI、SDGs
 14. 経営管理のさらなる課題：パラドックスやジレンマのマネジメント、組織の視点と個人の視点
 15. 全体のまとめと補足解説：経営管理論Bの全体像の再整理
- 定期試験

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

- <予習>
 - 講義資料を通読し、その授業回の主なトピック、キーワードを確認しておくこと。40分程度。
 - <復習>
 - 講義資料には概略のみを記載しているため、参考文献やその他の文献を参照しながら詳細を補完すること。
 - また、各種メディアでの企業経営に関する報道に触れ、講義で学んだことが実際の企業経営や自身の職業生活にどのように役立つのかを考えること。合わせて120分程度。
- これらのほか、レポート課題に関連する取り組みに合わせて20時間程度を要する。
 総合すると、授業全体として60時間程度の準備学習を想定している。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目では、経営管理にかかわる諸相について、経営学とその周辺領域の理論や考え方に触れることを企図している。この達成によって、高学部経営学科のディプロマ・ポリシーにあるような、企業経営の仕組みや組織行動について理解し、現状分析や今後の改善・解決の提案を考えられる人材になれることが期待される。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・小テスト課題やレポート課題は、オンラインツールを活用して実施する。
- ・授業内での発言(またはオンラインツールへの書き込み)を求めることがある。積極的な授業参加を期待する。

実務経験の有無及び活用

備考